

設 立 趣 旨 書

近年、日本では少子高齢化が進行する中で、地域コミュニティの希薄化が深刻な社会課題となっています。特に川崎市のような都市部では、共働き世帯の増加に伴い、子供たちがスポーツをする機会が限定的となり、大人たちの健康維持の機会や世代間交流も減少しています。各種統計データによると、生涯学習参加率は都市部で低下傾向にあり、スポーツを通じた健康づくりや地域のつながりの重要性が指摘されています。当地域（川崎市川崎区）においても、市内在住・在勤・在学者を対象としたアンケート調査から、子供の身体活動不足と大人の運動離れが目立ち始めている状況が伺えます。

このような社会的課題に対して、私たちは、人々が子供から大人まで世代を超えて交流し、健康で活力ある地域コミュニティを築く状態が望ましいと考えます。具体的には、幅広い年齢層が一緒に学び合い、スポーツの楽しさを共有することで、身体的・精神的な健康を向上させ、地域全体のつながりを強め、将来的に地域で活躍できる人材が育ち持続可能なコミュニティが形成される状態です。

このような状態を実現するためには、バスケットボールのような身近なスポーツを活用した定期的な練習や交流イベントが有効です。これにより、個人の技術向上（身体の動かし方、ボールの使い方など）だけでなく、地域企業や住民との連携を促進するとともに、生涯学習の機会を提供できます。

私たちは2023年から任意団体として「渡田バスケットボールクラブ」を運営してきました。毎週月曜日 18:00～20:00 に川崎市立田島支援学校で練習を実施し、約10～30名の参加者を集め、個人の技術練習、チーム練習、地域交流活動を行ってきました。BAND アプリを活用した参加連絡や、保護者同意を伴う未成年者の参加管理を通じて、安全で楽しい場を提供し、子供と大人が共に成長するコミュニティを築いてきました。これにより、参加者からは「バスケットボールの魅力を再発見できた」「地域の人々とのつながりが広がった」といった声が寄せられています。

今後は、法人としてさらに活動を拡大し、個人の技術練習、チーム練習、地域企業との交流イベント、将来的な地域人材育成などを通じて、バスケットボールを通じた生涯学習と健康づくりを推進します。初心者を迎え入れるとともに、団体でスポーツ保険に加入し、地域の方が参加しやすい運営を目指します。これらの活動は、不特定かつ多数の地域住民の利益増進に寄与します。例えば、健康づくりの観点から身体活動不足を解消し、コミュニティづくりにより孤立を防ぎ、生涯学習としてのスポーツの知識を共有することで、地域全体の活力向上に貢献します。また、NPO法第2条別表の「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」「子どもの健全育成を図る活動」に該当し、高い公益性があると考えます。

任意団体として活動を続けてきた中で、利用施設（川崎市立田島支援学校）の登録や地域住民との連携は問題なく行えてきましたが、活動のさらなる拡大と持続可能性を高めるためには、法人格の取得が有効であると考えます。具体的には、助成金申請や企業・個人からの寄付受領をよりスムーズに行えるようになります。また、対外的な信用が向上し、より多くの地域住民や団体との協力が期待できます。さらに、参加者や保護者の安心感を高める効果もあります。法人格の選択にあたっては営利を目的としない非営利活動であるため、株式会社等の営利法人では理念が合わず、一般社団法人よりも、公益性が明確に伝わりやすい点を重視して、特定非営利活動法人を選択しました。これにより、地域の信頼をさらに獲得し、バスケットボールを通じた生涯学習とコミュニティ形成を長期的に展開していけると確信しています。

令和8年 6月 20日

法人の名称 特定非営利活動法人 渡田バスケットボールクラブ

設立代表者 川村 敏男